

第 3 章 健康危機情報部門

第1節 業務の内容

概 況

健康危機管理情報課は、多様化する健康危機に対し、健康被害情報の収集、解析、発信及び人材育成を行う拠点として平成24年4月に設置された。調査研究・試験検査に係る調整、研修等の企画、広報・普及啓発、感染症・食品・医薬品・環境保健衛生に係る健康危機管理情報の収集や解析、発信等を行っている。

第2節 環境情報

1 環境情報

(1) 業務の概略

環境情報担当は、環境に起因する健康影響について、花粉症、アレルギー疾患、放射線、感染症媒介蚊等に関する情報の収集・解析・提供を行っている。

花粉症や環境放射線については、正しい情報を分かりやすく提供するため、関連部署と連携し充実を図りながらホームページ等に測定結果を公表している。またアレルギー疾患は、教育・保育等の部署と協議しながら、日常・緊急時を含めた対策の強化を図っている。

(2) 花粉症対策

ア 飛散花粉数の測定と予測

(ア) 花粉症の調査研究

花粉症対策への活用を目的とした「花粉症患者等基礎情報調査」として、(1)花粉・気象情報調査、(2)患者動向調査、(3)基礎的研究の3つの調査研究を実施している。これらの調査結果をもとに花粉症対策検討委員会において、花粉飛散予測や飛散花粉数が花粉症患者の症状へ与える影響の検証等を行っている。

また、平成28年度には、昭和58年度から10年ごとに実施している「花粉症患者実態調査」の第4回調査を行い、平成29年度に結果を公表した。

(イ) 花粉症対策検討委員会（昭和58年設置）

花粉症に係る調査研究の手法を確立し、実態の把握及び予防・治療方法の検討を行うとともに、適切な保健指導を講ずることを目的として花粉症対策検討委員会を設置している。

令和7年度は委員会を2回開催し、令和7年春のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況の解析及び飛散予測の検証、令和8年春のスギ、ヒノキ花粉の飛散予測等について検討し、結果を公表した。

イ 飛散花粉情報の提供

(ア) インターネットによる情報提供

花粉症発症の予防や症状の軽減に役立てるため、スギ、ヒノキ花粉についての飛散開始日や飛散数を予測、公表するとともに、ダーラム法による測定結果により、飛散花粉情報

の提供を行っている。

＜事業実施時期＞

スギ、ヒノキ花粉：2月～5月上旬

草本花粉（イネ科、ブタクサ等）：5月～11月

令和7年度のホームページへのアクセス数は約170万件であった。

(イ) パンフレット

花粉症の予防・治療の基本的知識や自己管理の方法などの最新情報をまとめた「花粉症一口メモ」を毎年発行し、都民への普及啓発を行っている。（令和7年度：8,000部発行、ホームページに掲載）

(3) アレルギー疾患対策

ア アレルギー疾患対策検討部会

アレルギー疾患対策に係る普及啓発や情報提供の方法、調査研究の在り方などを検討するため、専門医等を委員として開催している。令和7年度は4回開催し、アレルギー疾患に関する調査の検討及び東京都アレルギー情報navi.の監修を行った。

イ 普及啓発

(ア) 都民アレルギー講演会

アレルギー疾患のある子供の保護者や都民等を主な対象に、ぜん息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患に関する講演会を実施している。

令和7年度はWeb配信で1回開催し、総再生回数は3,560回であった。

(イ) 普及啓発用パンフレットの作成

ぜん息や食物アレルギー、アトピー性皮膚炎についてのパンフレットを作成し、ホームページに掲載しているほか、区市町村を通じて広く都民へ配布している。

ウ 人材育成（相談等に係る人材の資質の向上）

(ア) 子供のアレルギー相談実務研修

保育所・幼稚園職員、区市町村の保健衛生主管課や保育主管課職員、保健所職員等を対象に、子供のアレルギー疾患に関する知識と発症予防のための施設における日常生活管理のための研修を実施している。

令和7年度は疾患別・Web配信で3回開催し、合計2,618名が参加した。

(イ) 成人のアレルギー相談実務研修

医療保険者、訪問看護ステーション職員、高齢者施設職員等を対象に、成人ぜん息や食物アレルギーに関する知識と患者指導スキルの向上のための研修を実施している。

令和7年度は疾患別・Web配信で2回開催し、合計244名が参加した。

(ウ) ぜん息・食物アレルギー緊急時対応研修

保育所職員、区市町村の保健衛生主管課や保育主管課職員、保健所職員等を対象に、ぜん息の発作、食物アレルギーアナフィラキシーに関する知識と緊急時対応スキルの向上の

ための研修を実施している。

令和 7 年度は対象別で 2 回開催し、合計 409 名が参加した。

(エ) アレルギー対応体制強化研修（施設管理者向け研修、行政職員向け研修）

保育所等の管理的立場の方及び区市町村の職員向けに、アレルギーの体制整備を目的とした研修を実施している。令和 7 年度は施設管理者向けを Web 配信で 1 回開催し、329 名が参加した。行政職員向けは対象別で Web 配信で 2 回開催し、合計 131 名が参加した。

(オ) 都保健所アレルギー対策事業

アレルギー疾患患者の日常生活管理及び緊急時の対応が適切に行われるよう、アレルギー疾患患者やその家族に関わる関係者等を対象に、疾患に関する基礎知識及び予防や療養支援に関する知識・技術の普及等を行っている。

令和 7 年度は 6 保健所で普及啓発や講習会の開催等を実施した。都保健所に対しては、アレルギーに関する普及啓発及び研修用資材等の提供を行っている。

エ ゼん息り患児等重症化防止事業

東京都医師会と協力し、医師等を対象に、最新の診療ガイドラインに基づく治療や患者の自己管理指導等に関する内容の講習会を実施している。

令和 7 年度はハイブリット開催（Web、会場）及びアーカイブ配信で 1 回開催し、合計 34 名が当日参加、103 名が視聴した。

オ アレルギー疾患に関する調査

施策を推進するための取組として、都内乳幼児におけるアレルギー疾患に関する調査を 5 年毎に実施し、アレルギー疾患対策の基礎資料としている。令和 7 年度は令和 6 年度に実施した「アレルギー疾患に関する 3 歳児調査」及び「アレルギー疾患に関する施設調査（保育施設、学童保育）」の報告書を作成し、区市町村や関係機関に配布した。

(4) 放射線に関する情報提供

ア ホームページによる情報提供

都内の放射線情報に係るポータルサイトとして、平成 23 年度よりホームページ「環境放射線測定結果」の運営を行っている。

都内 8 地点における空間放射線量率の提供を平成 23 年度より順次開始、平成 25～26 年度に英語版ページの充実、平成 27 年度にはスマートフォンへの対応など、都民のみならず、国内外からの観光者等のニーズに対応した情報の提供を行っている。

令和 7 年度のホームページのアクセス件数は、約 2,153 万件であった。

イ 相談への対応

環境放射線測定結果に関する都民相談に対応するため、専用の電話窓口を設けている。

令和 7 年度の相談受付件数は、5 件であった。

ウ 講習会の開催

令和 7 年度は、自治体職員向け講習会を 2 回、Web 配信により開催した。

(5) 感染症媒介蚊サーベイランス

蚊媒介感染症対策の一環として、ウイルス保有蚊の生息サーベイランス（調査監視）を実施し、結果をホームページで公表している。

ア 広域サーベイランス

都内 16 箇所において蚊の成虫を捕獲し、7 種類（アカイエカ群、ヒトスジシマカ群、ネッタイシマカ、その他のシマカ亜属、ニセシロハシイエカ亜群、ハマダラカ及びその他の蚊）に分類し、個体数を求めた。さらに、蚊の種類に応じて、ウエストナイルウイルス、デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルス及びマラリア原虫の遺伝子検査を実施した。令和 7 年度は、6 月から 10 月にかけて全 10 回の調査を実施し、合計 5,669 匹の蚊を同定した。感染症病原体の遺伝子検査結果は、全て陰性だった。

イ 重点サーベイランス

平成 26 年 8 月のデング熱国内感染患者の発生を受けて、平成 27 年度からデング熱対策に特化したサーベイランスを実施している。令和 7 年度は、4 月から 11 月にかけて都内 9 箇所 50 地点において、以下の調査を実施した。

(ア) 幼虫調査

幼虫調査では、捕獲した幼虫の個体数を求めた上で、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルス（以下、「デングウイルス等」とする。）の遺伝子検査を実施した。令和 7 年度は、全 8 回の幼虫調査を実施し、合計 2,511 匹の幼虫を捕獲した。幼虫が採集できた最初の調査回においては、病原体遺伝子検査を行い、結果は全て陰性だった。

(イ) 成虫調査

成虫調査では、捕獲した蚊を 4 種類（ヒトスジシマカ群、ネッタイシマカ、その他のシマカ亜属及びその他の蚊）に分類し、個体数を求めた。さらに、蚊の種類に応じて、デングウイルス等の遺伝子検査を実施した。令和 7 年度は、全 14 回の成虫調査を実施し、合計 9,014 匹の蚊を同定した。感染症病原体の遺伝子検査結果は、全て陰性だった。

(6) 施設管理者及び都民向け蚊対策講習会

東京都の蚊の発生防止強化月間（6 月）に、公園、学校等施設管理者及び都民を対象に蚊媒介感染症や蚊の生態・防除方法等を周知する講習会を開催している。令和 7 年度は、会場開催と共にオンライン配信を行い、令和 7 年 9 月から令和 8 年 5 月末まで東京動画（東京都公式動画チャンネル）によるオンデマンド配信を行った。

第3節 食品医薬品情報

1 食品医薬品情報

(1) 業務の概略

食品医薬品情報担当は、食品及び医薬品の安全性に関する情報を幅広く収集・分析・評価し、都民向けの各種安全性情報を提供することを主な業務としている。

主要な事業の一つとして、食品安全情報評価委員会、「健康食品」による健康被害事例専門委員会、情報選定専門委員会を運営し、都民の日常生活に欠かすことの出来ない「食の安全」を守るため、食品全般の情報収集・分析・評価を行っている。

また、保健医療局及び生活文化局の関係部署で構成する「健康食品対策推進連絡会」を通して、健康食品の試買調査、事業者向け講習会、都・区・市の担当職員向け講習会を開催し、健康食品の安全性の確保、事業者への法令の周知、職員の専門性の向上に取り組んでいる。

このほか、食品安全に係るリスクコミュニケーション及び食品や医薬品に係る普及啓発等を行っている。

(2) 食品安全情報評価委員会

ア 食品安全情報評価委員会

「東京都食品安全情報評価委員会（以下「情報評価委員会」という。）」は、食品等の安全を確保するため、各種情報の分析及び評価等を行い、食品の安全対策を総合的に推進していくことを目的として、平成 15 年 4 月、要綱に基づく健康局長の諮問機関として設置された。平成 16 年 4 月には「東京都食品安全条例」の施行により、知事の附属機関として位置づけられた。

令和 7 年度は、7 月及び 2 月の 2 回開催し、①「シニア層を対象とした食品安全に関する意識調査」②「食品添加物の理解を促すための情報発信」について検討を行った。

普及啓発が必要とされた事項については、ホームページ等で都民等への情報提供を行った。

イ 「健康食品」による健康被害事例専門委員会

情報評価委員会において、健康食品に関する健康被害情報等の疫学的な分析及び評価を行うことを目的として、東京都食品安全情報評価委員会規則に基づき、平成 18 年度に、「健康食品」による健康被害事例専門委員会を設置している。

当専門委員会においては、東京都医師会及び東京都薬剤師会を通じて医療機関等から収集した健康食品との関連が疑われる健康被害情報等について、健康食品と健康被害との関連性及び健康影響の内容や程度に関する分析・評価を行っている。

また、平成 30 年度から東京都消費生活総合センターと連携し、提供を受けた情報についても分析・評価を行っている。

さらに、令和 7 年度から協定締結病院から収集した情報についても分析・評価の対象

としている。

令和7年度は、6月と1月の2回開催し、27事例の健康被害情報に関する分析・評価を行った。その結果については、情報評価委員会に報告し、東京都医師会及び東京都薬剤師会を通じて、医療機関等に情報提供を実施するとともに、ホームページやX（旧ツイッター）による情報発信等を行い普及啓発を図っている。

ウ 情報選定専門委員会

情報評価委員会において分析及び評価を行う安全情報を選定することを目的として、東京都食品安全情報評価委員会規則に基づき平成17年度から情報選定専門委員会を設置している。

令和7年度は、6月と12月の2回開催し、結果について情報評価委員会に報告した。

(3)健康食品

ア 健康食品対策推進連絡会事業

(ア)健康食品試買調査

健康食品の表示・広告の適正化及び医薬品成分を含有する無承認医薬品による健康被害の未然防止を目的として、市場に流通する健康食品の試買調査を実施している。

令和7年度は、合計125製品の試買調査を実施し、このうち、118製品の表示・広告に法違反又は違反の疑いを発見し、6製品から医薬品成分又は専ら医薬品成分を検出した（検出成分：タダラフィル、シルデナフィル、ジクロフェナク、アシュワガンダ）。

(イ)健康食品取扱事業者講習会

健康食品を取り扱う事業者に対する、食品衛生法、健康増進法、食品表示法、医薬品医療機器等法、景品表示法、特定商取引法等の関係法令の周知と事業者の自主管理能力の向上を目的として、毎年、健康食品取扱事業者講習会を開催している。

令和7年度は、動画配信により実施し、講習会参加申込者は、1,162名であった。

(ロ)健康食品関係業務担当職員向け講習会

健康食品に関する監視指導や相談業務等を担当する都区市職員の専門知識の向上を目的として、毎年、健康食品関係業務担当職員向け講習会を開催している。

令和7年度は、動画配信により実施し、講習会参加者は、105名であった。

イ 健康食品に関する安全性情報共有事業

平成18年7月から東京都医師会、東京都薬剤師会及び協定締結病院と連携し、健康食品の利用との関連が疑われる健康被害情報を収集し、「健康食品」による健康被害事例専門委員会において分析・評価を行い、その情報を医療関係者等に情報提供することにより、健康被害の拡大防止・未然防止に努めている。

事業発足以来、令和7年度末までに、合計578事例の健康被害情報を共有した。

(4)おくすり講座

医薬品等の適切な使用を推進し、都民の保健衛生の維持向上を図ることを目的として、平成 18 年度から「薬と健康の週間」（10 月 17 日～23 日）にあわせた時期等を開催している。

令和 7 年度の開催状況は以下のとおりである。

令和 7 年度 おくすり講座開催状況

開催日	実施方法	テーマ	備考	再生数/参加者
令和 7 年 7 月 29 日	実地	こども薬剤師体験～ぼくもわたしも薬剤師～	協力：東京都薬剤師会	55 組 (小学 4～6 年生、保護者)
令和 7 年 10 月 26 日	実地	東京都健康安全研究センター施設公開 展示「あなたは大丈夫？健康食品との付き合い方」等		178 名

(5)リスクコミュニケーション

ア 食の安全都民フォーラム

都民や事業者、行政等が、食に関する正しい情報を共有し、理解を深め、食の安全確保及び安心につなげていくことを目的として、平成 15 年度から、都民、事業者、行政等が一堂に会し意見交換等を行う「食の安全都民フォーラム」を実施している。

令和 7 年度は、「迷った時のヒント！健康食品との上手な付き合い方」をテーマに令和 8 年 1 月 28 日にシンポジウム形式で実施し、64 名の参加があった。

イ 食の安全調査隊

平成 19 年度から、都民による「食の安全調査隊」を組織し、施設見学やメンバー間のディスカッション等のグループ活動による、参加者の主体的な取組を通じた新たなリスクコミュニケーション手法の充実を図っている。

令和 7 年度は、「食の安全こども調査隊」として、食中毒予防に関する体験型学習を実施し、55 組の小学生と保護者が参加した。

ウ 食の安全都民講座

平成 27 年度から、食品安全に係るリスクコミュニケーションの一層の充実に向け、都民を対象に動画配信による講義や少人数での体験型イベント等を行う「食の安全都民講座」を実施している。

令和 7 年度の開催状況は以下のとおりである。

令和 7 年度 食の安全都民講座開催状況

	開催日	テーマ	形 式	人数・ 視聴回数
1	8 月 1 日から 12 月 26 日まで	これ食べられる？気になるキノコ講座	講義動画を ウェブ配信	1,124 回
2	11 月 7 日から 12 月 26 日まで	学校教育関係者を対象とした食品安全に関する研修会	講義動画を ウェブ配信	1,442 回
3	10 月 25 日	あなたは大丈夫？健康食品との付き合い方	出張講座	178 人
4	3 月 17 日	有毒植物の見分け方講座	集合形式	22 名

(6) 普及啓発

ア インターネットによる情報提供

都民への食品安全に関する情報提供として、「食品安全 FAQ」、「食品安全アーカイブス」、「健康食品ナビ」、「くすりの救Q箱」、「磨け！選択眼」等のホームページコンテンツを発信している。

令和 7 年度は、健康食品の試買調査結果及び食品安全情報評価委員会で評価検討された内容等、最新の食品安全情報を随時ホームページに掲載した。

イ メールマガジン

平成 16 年度より、月 2 回、食と薬の安全情報に関するメールマガジンを発行し、最新のトピックスや東京都の事業、関連ホームページの新着情報等を紹介している。令和 7 年度末の読者数は 5,642 人であった。

ウ 啓発資材による情報提供

都民への食品安全に関する情報提供を行うため、ポスター、リーフレット及び DVD 等を作成、保健所等関係事業所に配布し、普及啓発に努めている。

令和 7 年度は、紅麹を含む健康食品による健康被害事例を受け、健康食品の適正使用に関する短尺動画及びリーフレットを作成し、デジタルサイネージ等を活用した情報発信を実施した。

第4節 疫学情報

1 疫学情報

(1) 業務の概略

疫学情報担当は、主に感染症に関する「情報収集」「情報発信」「技術支援」「調査研究」を4本の柱として業務を実施している。

(2) 感染症に関する情報収集

ア 感染症発生動向調査

感染症法に基づく基幹地方感染症情報センターとして、都内医療機関から保健所を通して報告される全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患等について、発生届に記載された内容の確認、集計等を行った後、国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所に報告している。

令和7年における感染症発生動向の概況は以下のとおりであった。

(ア) 全数把握対象疾患

一類感染症の届出はなかった。二類感染症の届出は結核のみであった。新登録結核患者の総数は「東京都における結核の概況 令和7年(2025年)」を参照されたい。三類感染症は腸管出血性大腸菌感染症(463件)、細菌性赤痢(14件)、腸チフス(7件)、パラチフス(4件)と4疾患で合計488件の届出があった。四類感染症はレジオネラ症(180件)やE型肝炎(149件)など13疾患で445件の届出があった。五類感染症は百日咳(7,135件)や梅毒(3,386件)など22疾患で11,944件の届出があった。

(イ) 定点把握対象疾患

2025年第15週より急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection:ARI)の報告が開始され、2025年の報告数は927,732人、定点当たり2,228.42人となった。

インフルエンザの2025年の年間報告数は151,906人、定点当たり366.74人であり、前年比1.06倍と、ほぼ前年並みであった。2025/2026シーズンは、第39週に流行入り後、第43週には流行注意報基準を、第45週には流行警報基準を超えた。インフルエンザが11月中に流行警報レベルとなるのは、2009/2010シーズン以来であった。この後、2026年に入り流行警報レベルは解除されたが、第4週には流行注意報基準を第5週には警報基準を再度超えた。シーズン中に再度流行注意報・警報基準を超えたのは2008/09シーズン以来であった。

また、小児科疾患うち水痘の報告数は6,228人、定点当たり23.73人であり、前年比2.30倍と増加した。水痘は第17週には流行注意報基準を超えたため、東京都として6年ぶりに流行注意報レベルとなった。

イ 救急搬送サーベイランスシステムの運用

救急搬送時に感染症が疑われた患者の症状等の情報を収集・解析することにより、感染症の発生、集積を早期に探知するシステムを運用している。令和7年度は20件の異常集積疑い事例を探知した。病態分類別では、嘔吐・嘔気11件、発熱8件、呼吸障害1件であった。

(3) 結核対策

平成24年度から本庁機能の結核対策業務の一部として、保健所に対する結核相談の支援や各

種報告の取りまとめ及び報告書の作成、講演会運営などの業務を実施している。

ア 相談支援

令和7年度に保健所から受けた相談件数は320件であった。保健所から依頼を受け、6回の結核対策会議に出席した。

イ 保健所からの報告の受理

令和7年度は、初発患者調査報告（230件）、結核集団感染発生事例報告書（11件）、結核の接触者健診（集団感染対策）実施状況（11件）、コッホ現象事例報告書（48件）、合計300件の報告を受理した。

ウ 報告書等の作成

結核対策に関する報告として、以下の報告書等を作成している。

(ア) 「東京都における結核の概況 令和6年（2024年）」の作成

令和6年の都内の結核発生状況をまとめ、保健所、市町村、結核病床を有する病院等に配布した。（配布部数455部）

(イ) 「結核2026」の作成

結核に関する知識の普及のために主に医学生・看護学生向けに作成し、都内医療系学校、都立病院、保健所等に配布した。（配布部数12,124部）

エ 結核予防講演会

結核対策の普及啓発のため、保健所や医療機関、小中学校、日本語教育機関、高齢者施設等の職員を対象に講演会を実施している。令和7年度は全9回（集合形式4回、オンライン形式5回）実施した。

(4) 感染症に関する情報の発信

ア ネットワークを使った配信

(ア) ホームページの管理運営

東京都感染症情報センターホームページを管理運営し、インフルエンザをはじめとする感染症情報を都民に随時提供している。

当ホームページへのアクセス数は令和7年度合計で25,220千件であった。アクセス数は、インフルエンザ関連情報が2,066千件と最も多く、次いで東京都感染症週報に関する情報（1,503千件）、東京都微生物検査情報（982千件）、感染性胃腸炎・ノロウイルス関連情報（957千件）が多かった。

(イ) 感染症健康危機管理情報ネットワークシステムの運用

感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下、K-net）は、感染症に係る情報管理・情報共有を目的としたシステムで、保健所や感染症対策部との情報共有に活用している。

インフルエンザの流行を早期に探知するためのクラスターサーベイランス、積極的疫学調査による麻しんウイルスの遺伝子検査結果、感染性胃腸炎や麻しん等の集団発生、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の情報収集・還元を行った。

(ウ) 感染症流行状況の情報連絡会議（コメンテーター会議）

都内の感染症の流行状況について保健所や感染症対策部、微生物部各研究科との情報共有を行うために、毎週WEB会議システムを利用した会議を開催している。令和7年度は定例会を50回開催した。

イ 電子媒体による発信

(ア) 「東京都感染症週報」の発行

都内各医療機関から報告される患者発生情報と微生物部が行った病原体検査結果を集計・解析し、毎週木曜日に「東京都感染症週報」として発行している。また、1年間の調査結果は感染症発生動向調査事業報告書（年報）としてまとめている。

(イ) 「東京都微生物検査情報」の発行

病原体定点医療機関から搬入された検体や食中毒関連の検体を中心に、微生物部がまとめた検査情報「東京都微生物検査情報（月報）」を発行している。

(ウ) 「東京都インフルエンザ情報」の発行

インフルエンザ患者報告数や検出されたウイルスの型別、学級閉鎖などの情報を収集し、全国比較や地域（保健所）別比較を行った後「東京都インフルエンザ情報」として、広く都民及び保健・医療関係者に提供している。

(エ) 「感染症通信」の発行

感染症発生動向調査により、注意喚起が必要な感染症の流行が見られた場合、保健所へ詳細な情報を提供するため、適宜「感染症通信」をK-netに掲載している。

(オ) 「感染症ひとくち情報」の発行

流行している感染症について都民向けに「感染症ひとくち情報」をホームページに掲載している。令和7年度はエムポックス（2種類）、SFTS、ダニ媒介感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、梅毒、破傷風、百日咳（2回）、麻しん（2回）、水痘（2回）、インフルエンザ、感染性胃腸炎について発行した。麻しんについては、英語版、ベトナム語版も各1回発行した。

(5) 感染症対策に関する技術支援

ア 実地疫学調査チーム（TEIT: Tokyo Epidemic Investigation Team）

平成24年度から、疫学情報担当内に東京都実地疫学調査チーム（以下「TEIT」という）を設置し、感染症発生時に保健所が行う実地疫学調査のうち、特に集団発生時の技術的支援を保健所からの要請に基づき行っている。

(ア) TEIT派遣要請数

令和7年度の保健所からの集団感染事例の報告数は、合計11,516件（新型コロナウイルス感染症770件、インフルエンザ9,526件、感染性胃腸炎688件、その他532件）で、そのうちTEIT派遣要請があったのは、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件、薬剤耐性アシネトバクター感染症1件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1件、腸管出血性大腸菌感染症1件であった。

(イ) 感染対策支援チームの派遣調整

令和7年度は、派遣要請のあった延べ13保健所に対して支援調整を行った。そのうち、クラ

スター発生施設への派遣調整が 7 件（TEITとの合同調査は 4 件）であった。

イ 実地疫学調査研修

第 5 節に記載した。

(6) 調査研究

ア 東京都における分子疫学調査の還元方法の検討：保健所向け VNTR 還元ツールの開発

東京都における結核菌検査事業では、疫学情報担当が依頼内容を確認した後、病原細菌研究科で検査が実施され、その結果は依頼元の保健所のみに報告されている。このため、保健所間での情報共有や活用は限定的であった。本研究の目的は、都内保健所間において VNTR 完全一致および一領域違いの一致を容易に検索可能とするツールを開発することである。疫学情報担当において他の検査結果検索ツールに関する情報収集を行い、疫学調査に必要な項目を整理したうえで、保健所職員が簡便に操作可能な仕様を重視して開発を行った。また、検査部門および事業所管部署と調整を行い、東京都の結核対策を所管する会議体において合意形成を図った後、都内保健所向けの VNTR 検索ツールを開発した。本ツールにより、保健所間での菌株一致情報の迅速な把握が可能となり、広域的な疫学的関連の確認に資することが期待される。今後は、定期的な事業評価に基づき、運用状況を踏まえたシステム改修を行うことが必要である。

第5節 専門職研修、技術研修、実地疫学調査研修等

1 専門職研修

新たな健康危機の発生や国際規格への対応など、多様化・複雑化する行政課題に対応できる専門人材育成のため、「健康安全分野における専門職種の育成方針」に基づき、健康安全研究センターを中心に、平成24年度に既存の研修体系を整理し、新たな専門研修のプログラムを策定した。

専門職研修は、「専門知識・技術の習得・向上」と「行政実務力の習得・向上」を図り、職員一人ひとりの資質の向上と職務遂行能力の開発を目的に実施している。なお、専門知識・技術に係る研修については、区市職員にも広く受講を呼びかけている。

(健康安全研究センターより実施を通知した研修を掲載)

区 分	名 称	内 容	回数 ／年	日数 ／回	受講 者数	実 施 期 間
級 研 修	共通研修	専門職共通新任研修	1	1	33	令和7年5月20日
	衛生監視員 研修 〈食品衛生〉	衛生監視員研修（初級）〈食品衛生〉	1	4	57	令和7年8月19、20日 9月1、2日
	衛生監視員 研修 〈環境衛生〉	環境衛生関係概論	1	1	7	令和7年4月16日
		環境保健事業概論	1		36	
		環境衛生営業六法等概論	1		36	
		水道事務概論	1		36	
		ねずみ・衛生害虫概論	1		36	
		環境衛生検査	1	1	7	令和7年4月21日
		建築物衛生法概論	1	1	30	令和7年5月19日
		特定建築物検査実習	1	3.5	5	令和7年10月6日～8日、10日 令和7年10月6日～8日、14日 令和7年10月7日～9日、20日 令和7年10月20日～22日、24日 令和7年10月20日～22日、28日

	獣医職研修	獣医職研修（初級）	獣医職の業務、食品衛生関係法令の基礎知識、東京都ふぐの取扱い規制条例、乳及び乳製品の成分規格等に関する命令、家畜伝染病予防法概論、健康安全健康センターにおける監視業務、市場衛生検査所の業務、保健所における監視業務、若手職員のキャリアルートと経験談、動物愛護管理関係法令の基礎知識、感染症関係法令の基礎知識、狂犬病予防及び動物由来感染症対策、動物愛護相談センターの概要、動物取扱業監視・捕獲収容業務等、飼養管理・譲渡業務等、動物関係業務に係るスキルアップ、芝浦食肉衛生検査所の業務概要、と畜場法、精密検査担当の実務、化製場法・動物質原料運搬業	1	3	7	令和7年6月19日、20日、7月1日
中級研修	衛生監視員研修 ＜食品衛生＞	衛生監視員研修（中級）＜食品衛生＞	リスクコミュニケーション、食中毒調査について～疫学調査を中心として～、監視指導と行政法、クレーム対応、食品衛生管理ファイルを用いた HACCP 指導の考え方について ～手引書利用ツールの活用等～、記憶に残る事例等	1	3	15	令和8年2月17日、18日、24日
	衛生監視員研修 ＜環境衛生＞	衛生監視員研修（中級）＜環境衛生＞	水質基準改正、専用水道、環境衛生施設と消防法、環境確保条例及び土壌汚染対策法、特定建築物の建築確認申請時審査に係る指導、浄水処理に関するシステム、水処理に関する最新情報	1	2	52	令和8年3月12日、13日
	獣医職研修	獣医職研修（中級）	築地市場の魚たち、知己時から豊洲へ移転プロジェクトを振り返る、豊洲新市場での衛生指導、豊洲市場移転後初めての許可一斉更新、獣医衛生行政を振り返る	1	1	5	令和7年11月28日
専門研修	衛生監視員研修 ＜食品衛生＞	食品技術講習会	衛生管理と危機管理 うまくいくかは「人」次第	4	0.5	101	令和7年5月27日
			食べ残し持ち帰り促進ガイドラインの策定と運用について		0.5	79	令和7年8月14日
			PDCA サイクルマネジメントによる食品製造環境の清浄度管理		0.5	55	令和7年10月22日
			東京都カスタマー・ハラスメント防止条例等の概要について、東京都知事部局職員向けカスタマー・ハラスメント対応マニュアルの策定について		0.5	79	令和8年1月17日
		食品衛生監視指導実務研修	製造業における監視のポイント、輸入業における監視及び自主管理の推進、製造業等の監視指導、自主管理点検の同行等、倉庫業等の監視指導、食品業時間氏の実務、食品流通拠点における監視及び自主管理の推進	1	2	10	令和7年10月14、15日
			通常監視同行、市場衛生検査所の概要、タブレット端末を活用した HACCP 監視、ふぐの徐毒、市場内施設見学、微説物検査室見学、理化学検査室見学	2	1	12	令和8年1月29日
						12	令和8年1月30日
		食肉市場及び食肉処理等見学、精密検査室視察、と畜検査員による外部検証、食肉の知識	2	1	10	令和7年10月22日	
					10	令和7年11月19日	
		HACCP に係る食品衛生監視員講習会	HACCP 導入のメリット及び衛生管理体制、HACCP の7原則 12 手順、HACCP と一般衛生管理プログラムとの関係、危害要因分析、重要管理点、管理基準、モニタリング方法及び改善措置、監視員が行う危害要因分析、施設の視察、HACCP 計画作成	1	3	9	令和8年2月2～4日
	食鳥検査関係技術講習会	「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」の概要、食鳥処理における微生物コントロール	1	0.5	29	令和8年2月20日	
衛生監視員研修 ＜環境衛生＞	ビル衛生検査技術研修	特定建築物の環境衛生管理に関する不適率及び衛生環境に関する監視指導	1	0.5	41	令和8年3月11日	
	飛散花粉数調査技術研修	飛散花粉数測定に関する基礎知識、花粉の生態、花粉の測定	1	0.5	4	令和7年12月10日	
	環境衛生実務研修	プールの安全管理	1	0.5	64	令和8年3月3、5日	
行政実務研修	法令実務	法の解釈、行政指導の役割と限界、行政処分の手続き、国家賠償と行政訴訟事例、行政不服審査法と行政手続法の改正内容、事例演習	1	0.5	27	令和7年9月11日	

2 技術研修

技術研修は、試験検査に関する基礎的かつ実務的な知識と技術の付与及び新しい技術を含めた技術水準の向上と習熟化を目的として実施している。

都職員については、食品衛生監視員、環境衛生監視員、薬事監視員及び保健所で栄養表示基準等業務に従事する栄養士に対する研修を実施している。また、特別区、八王子市及び町田市職員については、保健所等において試験検査業務に従事する職員、食品衛生監視員、環境衛生監視員及び薬事監視員に対する研修を実施している。

(1) 東京都職員技術研修

研 修 名		内 容	回数 ／年	日数 ／回	受講 者数	実 施 期 間	担当研究科
食 品 衛 生 監 視 員 (検査)	食品（魚介類の細菌検査）	魚介類に係る細菌学的検査 ※ 市場衛生検査所勤務職員優先	1	0.5	3	令和7年4月18日	食品微生物
	食品化学（水銀）	食品中（魚介類）に含まれる水銀の検査法 ※ 市場衛生検査所の水銀検査経験のある職員対象	1	2	1	令和7年11月19日～20日	食品成分
	食品中の食品添加物（保存料・漂白剤）	食品中の食品添加物分析法－1 保存料（安息香酸・ソルビン酸・デヒドロ酢酸・パラオキシ安息香酸エステル類）の分析／漂白剤（二酸化硫黄及び亜硫酸塩類）の分析 ※ 検査所勤務職員対象	1	3	1	令和8年1月19日～21日	食品添加物
	食品中の食品添加物（甘味料・酸化防止剤）	食品中の食品添加物分析法－2 甘味料（サッカリン及びアセスルファムカリウム）の分析／酸化防止剤（BHA・BHT・TBHQ）の分析 ※ 検査所勤務職員対象	1	3	1	令和8年1月26日～28日	食品添加物
	食品中の食品添加物（着色料・発色剤）	食品中の食品添加物分析法－3 着色料（食用タール色素及び未指定酸性タール色素）の分析／発色剤（亜硝酸根）の分析 ※ 検査所勤務職員対象	1	3	1	令和8年2月2日～4日	食品添加物
食 品 衛 生 監 視 員	真菌	真菌概論及び真菌検査	2	1	1	令和8年1月15日	食品微生物
					1	令和8年1月22日	
	細菌学的品質検査	食品の衛生細菌学的検査	2	3	1	令和8年1月21日～23日	食品微生物
					1	令和8年1月28日～30日	
	細菌性食中毒	細菌性食中毒の検査	3	4	3	令和7年5月13日～16日	食品微生物
					3	令和7年5月21日～23日	
					3	令和7年5月27日～30日	
	乳・乳製品の検査法	乳・乳製品の細菌学的検査及び理化学検査 ※ 乳処理業の監視指導を行う都職員対象	1	1	5	令和7年5月9日	食品微生物／食品成分
	寄生虫	食品由来の寄生虫（原虫）概論 魚介類の寄生虫検査法	1	2	0	令和8年1月20日～21日	病原細菌
	ウイルス性食中毒	ノロウイルスをはじめとしたウイルス性食中毒の概論及び検査法	3	2	1	令和7年8月18日～19日	ウイルス
					1	令和7年8月25日～26日	
					1	令和7年9月1日～2日	
食 品 衛 生 監 視 員	食品のアレルゲン検査	アレルゲン（特定原材料）検査の概要 ELISAによるスクリーニング検査 ウェスタンブロット法及びPCR法による確認検査	2	1	1	令和8年1月9日	食品成分
					3	令和8年1月16日	
	食品化学（食品成分）	乳・乳製品の成分規格（理化学）、カビ毒、遺伝子組換え食品、食品苦情、化学性食中毒、酸価・過酸化価、食品中の放射性物質検査	2	3	3	令和8年2月4日～6日	食品成分
					2	令和8年2月10日～13日	
食 品 衛 生 監 視 員	食品化学（食品添加	食品中の食品添加物の分析法	2	2	3	令和7年9月2日～3日	食品添加物

	物)				3	令和7年9月4日～5日	
	食品化学（食品添加物品質規格等）	食品添加物概論 食品添加物の成分規格試験 食品添加物製剤の成分分析と成績書の読み方	2	1	0	令和7年5月22日	食品添加物
					1	令和7年5月23日	
	容器包装（合成樹脂）	食品衛生法に基づく器具及び容器包装、おもちゃの検査	1	1	1	令和7年5月20日	食品添加物
	食品化学（残留物質）	畜水産物中の残留動物用医薬品検査 畜水産物中の残留農薬分析	1	2	3	令和8年1月9日～10日	残留物質
環境衛生監視員	食品を加害する衛生動物	食品混入害虫検査法	3	2	0	令和7年5月15日～16日	環境衛生
					1	令和8年1月27日～28日	
					0	令和8年1月29日～30日	
	環境衛生化学	空气中化学物質概論、空气中化学物質測定、アスベスト概論、簡易測定法、空气中化学物質評価	2	1	2	令和7年6月4日	環境衛生
					2	令和7年6月5日	
	衛生動物（屋内で発生する昆虫）	衛生動物の同定方法、顕微鏡の使い方	2	2	1	令和7年5月19日～20日	環境衛生
					1	令和7年5月21日～22日	
	衛生動物（蚊）	蚊の同定方法、蚊の捕集方法	2	2	2	令和7年6月17日～18日	環境衛生
					1	令和7年6月19日～20日	
	衛生動物（ダニ）	ダニ類の同定方法、ダニ類の調査方法、簡易ダニアレルゲン測定	2	2	2	令和7年9月9日～10日	環境衛生
					1	令和7年9月11日～12日	
	水質監視（飲料水等の化学）	飲料水等の化学的水質の現状と検査方法及び苦情対応	2	1	3	令和7年10月10日	環境衛生
					3	令和7年10月11日	
	水質監視（プール水等の化学）	プール水等の化学的水質問題と検査方法	2	1	2	令和7年9月17日	環境衛生
					2	令和7年9月27日	
	水質監視（飲料水等の微生物）	飲料水等における微生物の現状と検査方法	2	1	3	令和8年2月25日	環境衛生
					3	令和8年2月26日	
薬事監視員	水質監視（浴槽水、プール水等の微生物）	公衆浴場、プール水等における微生物の現状と検査方法	2	1	2	令和8年3月3日	環境衛生
					3	令和8年3月4日	
	医薬品基礎コース	医薬品試験の概要	1	3	3	令和7年6月3日～5日	医薬品
	化粧品・部外品基礎コース	化粧品・医薬部外品試験の概要（検体受入れから結果報告まで）	1	2	2	令和7年6月12日～13日	医薬品
	シアン検査実務	毒物劇物取締法に基づくメッキ廃水中のシアン試験法概要	2	1	3	令和7年6月19日	医薬品
					1	令和7年6月20日	
	家庭用品検査実務	家庭用品試験の概要（機器分析・公定試験法）	2	1	2	令和7年6月16日	医薬品
					1	令和7年6月17日	
	医療機器試験法	品目仕様に基づく試験内容の紹介と試験法実習	2	1	3	令和7年6月5日	医薬品
					2	令和7年6月6日	
	不正ケン指導取締り	ケン等規制植物の基礎知識及び形態学的並びに理化学的特徴による植物鑑別法の講義と実習 ※ 薬用植物園で実施 ※ 都定員内で八王子市・町田市職員を対象に含む	1	1	5	令和7年5月15日	医薬品
	不正大麻指導取締り	大麻等規制植物の基礎知識及び形態学的並びに理化学的特徴による植物鑑別法の講義と実習 ※ 薬用植物園で実施	1	1	3	令和7年9月5日	医薬品
	医薬品承認審査	医薬品製造承認審査の実際	1	1	2	令和7年6月10日	医薬品
	医薬部外品製造承認審査	医薬部外品承認審査の講義と実習	1	1	2	令和7年6月27日	医薬品
	医療機器の生物学的安全性評価	医療機器の生物学的安全性評価（コンタクトレンズの細胞毒性試験）	1	1	3	令和7年6月9日	生体影響

全職種	環境放射能	環境放射能の基礎知識及び測定実習	1	1	3	令和7年5月29日	環境衛生
その他	腸管系病原菌検査	腸管系病原菌の細菌学及び検査法 ※ 島しょ保健所で検査に携わる臨床検査技師対象	1	4	0	令和7年6月3日～6日	食品微生物
	栄養成分の検査法	栄養成分検査の概論及び実習 ※ 都保健所及び健康安全部食品監視課の栄養士で栄養表示等普及促進事業に携わる職員及びそれに準ずる職員対象	1	1	3	令和7年9月11日	食品成分
	動物を加害する衛生動物	動物を加害する衛生動物の同定方法、顕微鏡の使い方 ※ 動物愛護等の業務を担当する職員（獣医職等）対象	1	2	1	令和7年11月20日～21日	環境衛生

(2) 特別区・八王子市・町田市職員技術研修

研 修 名		内 容	回数 ／年	日数 ／回	受講 者数	実 施 期 間	担当研究科
衛生 検 査	腸管系病原菌検査	腸管系病原菌の細菌学及び検査法	1	4	3	令和7年6月3日～6日	食品微生物
	食品細菌検査	腸管出血性大腸菌・サルモネラ属菌・ブドウ球菌・リステリア・カンピロバクター等を含む食品細菌検査	1	5	3	令和8年2月16日～20日	食品微生物
	真菌	真菌概論及び真菌検査	1	1	1	令和8年1月22日	食品微生物
	食品苦情検査（真菌・異物混入）	食品苦情の理化学検査法、食品苦情の微生物検査法	1	2	3	令和8年1月29日～30日	食品微生物 ／食品成分
	残留物質（農薬等）	検査で得られた結果の見方及び基準値の確認方法習得と残留農薬検査の実践的な研修を実施 ※ 検査業務担当職員向け	1	1	0	令和8年1月9日	残留物質
	残留物質（動物用医薬品等）	検査で得られた結果の見方及び基準値の確認方法習得と動物用医薬品検査の実践的な研修を実施 ※ 検査業務担当職員向け	1	1	0	令和7年12月5日	残留物質
	食品を加害する衛生動物	食品混入害虫検査法	3	2	1	令和7年5月15日～16日	環境衛生
					1	令和8年1月27日～28日	
					0	令和8年1月29日～30日	
	環境衛生化学	空気中化学物質概論、空気中化学物質測定、アスベスト概論、簡易測定法、空気中化学物質評価	2	1	1	令和7年6月4日	環境衛生
					1	令和7年6月5日	
	水質監視（浴槽水、プール水等の微生物）	公衆浴場、プール水等における微生物の現状と検査方法	2	1	3	令和8年3月3日	環境衛生
					1	令和8年3月4日	
	感染症胃腸炎（ウイルス検査）	感染症胃腸炎起因ウイルスの概論及び検査法等	1	1	2	令和7年8月4日	ウイルス
	食品中の食品添加物（保存料・漂白剤）	食品中の食品添加物分析法－1 保存料（安息香酸・ソルビン酸・デヒドロ酢酸・パラオキシ安息香酸エステル類）の分析／漂白剤（二酸化硫黄及び亜硫酸塩類）の分析 ※ 検査所勤務職員対象	1	3	3	令和8年1月19日～21日	食品添加物
	食品中の食品添加物（甘味料・酸化防止剤）	食品中の食品添加物分析法－2 甘味料（サッカリン及びアセスルファムカリウム）の分析／酸化防止剤（BHA・BHT・TBHQ）の分析 ※ 検査所勤務職員対象	1	3	2	令和8年1月26日～28日	食品添加物

	食品中の食品添加物 (着色料・発色剤)	食品中の食品添加物分析法－３ 着色料(食用タール色素及び未指定酸性タール色素)の分析／発色剤(亜硝酸根)の分析 ※ 検査所勤務職員対象	1	3	3	令和８年２月２日～４日	食品添加物
食 品 衛 生 監 視 員	真菌	真菌概論及び真菌検査	2	1	3	令和８年１月15日	食品微生物
					2	令和８年１月22日	
	細菌学的品質検査	食品の細菌学的品質検査	2	3	4	令和８年１月21日～23日	食品微生物
					4	令和８年１月28日～31日	
	細菌性食中毒	細菌性食中毒の検査	3	4	4	令和７年５月13日～16日	食品微生物
					4	令和７年５月20日～23日	
					4	令和７年５月27日～30日	
	寄生虫	食品由来の寄生虫(原虫)概論 魚介類の寄生虫検査法	3	2	4	令和８年１月27日～28日	病原細菌
					6	令和８年２月３日～４日	
					4	令和８年２月17日～18日	
	ウイルス性食中毒	ノロウイルスをはじめとしたウイルス性食中毒の概論及び検査法	3	2	5	令和７年８月18日～19日	ウイルス
					4	令和７年８月25日～26日	
					6	令和７年９月１日～２日	
	食品のアレルゲン検査	アレルゲン(特定原材料)検査の概要 ELISAによるスクリーニング検査 ウェスタンブロット法及びPCR法による確認検査	2	1	4	令和８年１月９日	食品成分
					3	令和８年１月16日	
	食品化学(食品成分)	乳・乳製品の成分規格(理化学)、カビ毒、遺伝子組換え食品、食品苦情、化学性食中毒、酸価・過酸化価、食品中の放射性物質検査	2	3	2	令和８年２月４日～６日	食品成分
					3	令和８年２月10日～13日	
	食品化学(食品添加物)	食品中の食品添加物の分析法	2	2	1	令和７年９月２日～３日	食品添加物
					2	令和７年９月４日～５日	
	食品化学(食品添加物品質規格等)	食品添加物概論 食品添加物の成分規格試験 食品添加物製剤の成分分析と成績書の読み方	2	1	6	令和７年５月22日	食品添加物
					3	令和７年５月23日	
	容器包装(合成樹脂)	食品衛生法に基づく器具及び容器包装、おもちゃの検査	1	1	3	令和７年５月20日	食品添加物
	食品化学(残留物質)	畜水産物中の残留動物用医薬品検査 畜水産物中の残留農薬分析	1	2	0	令和８年１月８日～９日	残留物質
	残留物質(農薬等)	検査で得られた結果の見方及び基準値の確認方法習得と残留農薬検査の実践的な研修を実施 ※ 検査業務担当職員向け	1	1	0	令和８年１月９日	残留物質
	残留物質(動物用医薬品等)	検査で得られた結果の見方及び基準値の確認方法習得と動物用医薬品検査の実践的な研修を実施 ※ 検査業務担当職員向け	1	1	0	令和７年12月５日	残留物質
	食品を加害する衛生動物	食品混入害虫検査法	3	2	4	令和７年５月15日～16日	環境衛生
					3	令和８年１月27日～28日	
					5	令和８年１月29日～30日	
環 境 衛 生 監 視 員	環境衛生化学	空气中化学物質概論、空气中化学物質測定、アスベスト概論、簡易測定法、空气中化学物質評価	2	1	0	令和７年６月４日	環境衛生
					0	令和７年６月５日	
	衛生動物(屋内で発生する昆虫)	衛生動物の同定方法、顕微鏡の使い方	2	2	5	令和７年５月19日～20日	環境衛生
					5	令和７年５月21日～22日	
	衛生動物(蚊)	蚊の同定方法、蚊の捕集方法	2	2	4	令和７年６月17日～18日	環境衛生
					4	令和７年６月19日～20日	
	衛生動物(ダニ)	ダニ類の同定方法、ダニ類の調査方法、簡易ダニアレルゲン測定	2	2	4	令和７年９月９日～10日	環境衛生
					3	令和７年９月11日～12日	
	水質監視(飲料水等)	飲料水等の化学的水質の現状と検査方法及び苦	2	1	1	令和７年10月９日	環境衛生

薬 事 監 視 員	の化学)	情対応			3	令和7年10月10日	
	水質監視（プール水等の化学)	プール水等の化学的水質問題と検査方法	2	1	3	令和7年9月17日	環境衛生
					4	令和7年9月27日	
	水質監視（飲料水等の微生物)	飲料水等における微生物の現状と検査方法	2	1	2	令和8年2月25日	環境衛生
					2	令和8年2月26日	
	水質監視（浴槽水、プール水等の微生物)	公衆浴場、プール水等における微生物の現状と検査方法	2	1	2	令和8年3月3日	環境衛生
					3	令和8年3月4日	
	医薬品基礎コース	医薬品試験の概要	1	3	2	令和7年6月3日～5日	医薬品
	化粧品・部外品基礎コース	化粧品・医薬部外品試験の概要（検体受入れから結果報告まで）	1	2	2	令和7年6月12日～13日	医薬品
	シアン検査実務	毒物劇物取締法に基づくメッキ廃水中のシアン試験法概要	2	1	0	令和7年6月19日	医薬品
					2	令和7年6月20日	
全 職 種	家庭用品検査実務	家庭用品試験の概要（機器分析・公定試験法）	2	1	1	令和7年6月16日	医薬品
					2	令和7年6月17日	
	医療機器試験法	品目仕様に基づく試験内容の紹介と試験法実習	2	1	0	令和7年6月5日	医薬品
					1	令和7年6月6日	
	不正キシ指導取締り	キシ等規制植物の基礎知識及び形態学的並びに理化学的特徴による植物鑑別法の講義と実習 ※ 薬用植物園で実施 ※ 都定員内で八王子市・町田市職員を対象を含む	1	1	0	令和7年5月15日	医薬品
そ の 他	医療機器の生物学的安全性評価	医療機器の生物学的安全性評価（コンタクトレンズの細胞毒性試験）	1	1	0	令和7年6月9日	生体影響
	環境放射能	環境放射能の基礎知識及び測定実習	1	1	0	令和7年5月29日	環境衛生
そ の 他	動物を加害する衛生動物	動物を加害する衛生動物の同定方法、顕微鏡の使い方 ※ 動物愛護等の業務を担当する職員（獣医職等）対象	1	2	0	令和7年11月20日～21日	環境衛生

3 実地疫学調査研修

平成24年度から、健康危機管理対策の基本理念及び基本的対応を修得し、感染症発生時に現場のリーダーとして対応に当たる人材の育成を図ることを目的に、実地疫学調査研修を実施している。

令和7年度は、9日間（16講座）の集合研修とし、うち7講座は公開講座とした。受講生は集合研修が24名、公開講座を受講した保健所は延142ヶ所であった。

4 その他

大学等からの研修生受入れ

研修期間	研修生	担 当 研 究 科	人数
令和7年4月21日 ～令和8年3月31日	東京農工大学大学院	病原細菌研究科	1
令和7年5月19日 ～令和7年8月1日	明治薬科大学	医薬品研究科	1
令和7年6月9日 ～令和7年6月27日	東京大学医科学研究所	ウイルス研究科	4
令和7年7月28日 ～令和8年3月31日	東京都家畜保健衛生所	ウイルス研究科	1
令和7年8月18日 ～令和7年10月31日	明治薬科大学	残留物質研究科	1
令和7年10月15日 ～令和7年10月16日	横浜市衛生研究所	ウイルス研究科	2
令和7年11月17日 ～令和7年12月1日	東京大学医科学研究所	ウイルス研究科	2
令和7年11月28日 ～令和7年12月3日	足立区足立保健所	病原細菌研究科	1
合 計			13

第6節 見学、行事、広報

1 見学

(1) 国内

①本所

見学月日	見 学 者	担当研究科	人数
令和7年6月11日	東京農工大学	食品微生物・食品添加物・残留物質研究科	38
令和7年10月3日	帝京平成大学	食品微生物研究科、医薬品研究科、薬事監視指導課、医療機器監視課	15
令和8年2月5日	(公財)結核予防会結核研究所	健康危機管理情報課 疫学担当、病原細菌研究科	6
合 計			59

②薬用植物園

見学月日	見 学 者	担当研究科	人数
令和7年4月20日	薬科大学	薬用植物園（薬用植物研修）	22
令和7年4月22日	薬科大学	薬用植物園（薬用植物研修）	176
令和7年4月24日	新人薬事監視員	薬用植物園（ケシ研修）	14
令和7年5月1日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園（ケシ研修）	34
令和7年5月1日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園（ケシ研修）	20
令和7年5月2日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園（ケシ研修）	7
令和7年5月2日	薬事監視員	薬用植物園（ケシ研修）	24
令和7年5月12日	海上保安庁	薬用植物園（アサ研修）	3
令和7年5月13日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園（ケシ研修）	33
令和7年5月15日	薬事監視員	薬用植物園（ケシ研修）	3
令和7年5月16日	新潟県	薬用植物園（ケシ研修）	1
令和7年5月17日	大学	薬用植物園（薬用植物研修）	30
令和7年5月18日	薬事関係団体	薬用植物園（ケシ研修）	100
令和7年5月22日	救急災害医療課	薬用植物園（ケシ研修）	4
令和7年5月22日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園（ケシ研修）	11
令和7年5月14日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園（ケシ研修）	10
令和7年6月5日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園（ケシ・ア	27

		サ研修)	
令和7年6月19日	税関関係職員	薬用植物園 (ケシ・アサ研修)	10
令和7年8月8日	インターンシップ	薬用植物園 (ケシ・アサ・危険ドラッグ研修)	7
令和7年8月20日	国立精神・神経医療研究センター	薬用植物園 (アサ研修)	11
令和7年8月21日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園 (アサ研修)	19
令和7年8月22日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園 (アサ研修)	11
令和7年8月27日	大阪健康安全基盤研究所	薬用植物園 (アサ研修)	3
令和7年9月5日	薬事監視員	薬用植物園 (アサ研修)	3
令和7年9月6日	薬科大学	薬用植物園 (アサ研修)	19
令和7年9月14日	薬事関係団体	薬用植物園 (アサ研修)	30
令和7年8月9日	インターンシップ	薬用植物園 (アサ研修)	6
令和7年8月20日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園 (アサ研修)	23
令和7年9月6日	薬事監視員	薬用植物園 (アサ研修)	3
令和7年9月7日	薬科大学	薬用植物園 (アサ研修)	30
令和7年9月10日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園 (アサ研修)	30
令和7年9月10日	薬事監視員	薬用植物園 (アサ研修)	27
令和7年9月14日	薬剤師会	薬用植物園 (アサ研修)	100
令和7年9月18日	インターンシップ	薬用植物園 (有毒植物研修)	1
令和7年9月25日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園 (アサ研修)	32
令和7年10月2日	薬物乱用防止関係団体	薬用植物園 (アサ研修)	28
令和8年3月17日	一般 (食の安全都民フォーラム)	薬用植物園 (有毒植物研修)	22
令和8年3月27日	警察	薬用植物園 (ケシ・アサ・危険ドラッグ研修)	33
合 計			749

(2) 国外

①本所

人数は通訳者及び引率者を含む。

見学月日	見 学 者	担当研究科	人数
令和 7 年 6 月 3 日	国立感染症研究所	食品微生物、病原細菌、 ウイルス	14
合 計			14

行事

(1) 夏休み子供セミナー

子供及びその保護者に対して、食品や環境に関する楽しい体験学習を通して当センターの業務の普及啓発を行うことを目的として開催した。

テ ー マ 及 び 内 容	「体験しよう！科学のふしぎな世界」 蚊取り線香のヒミツにせまる！
日 時	令和 6 年 7 月 26 日（金曜日） ①10 時～11 時 30 分 ②13 時～14 時 30 分 ③15 時～16 時 30 分
参 加 者	58 名

(2) 施設公開

監視と検査により都民の生命と健康を守る東京都健康安全研究センターの業務内容を紹介することで、未来の人材に科学と技術で支える公衆衛生行政への関心を高めてもらうことを目的として開催した。

日 時	令和 7 年 10 月 25 日（土曜日） 10 時～16 時 30 分まで
内 容	(1) ラボツアー 実際に検査を行っている研究室を見学するツアー。 各回 60 分、3 回実施。 ①感染症・微生物コース ②食品化学コース ③医薬品・環境コース (2) 展示コーナー 各科の概略や、検査に使用する機器などを展示し、職員が解説する。
参 加 者	178 名

(3) 結核普及啓発事業

複十字シール募金運動

結核予防運動を積極的に推進し、結核予防の正しい知識の普及・啓発等結核予防活動の充実に寄与するため、福祉局・保健医療局各部及び事業所に協力を依頼した。

(4) ハンセン病普及啓発事業

ア ハンセン病パネル展示・動画配信

平成 21 年度にハンセン病基本法が施行され、国は 6 月 22 日を「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」と制定した。都においても平成 21 年度からこの日に合わせて普及啓発活動を行っている。令和 7 年度は、6 月 21 日から 25 日まで東京都庁第一本庁舎 1 階アートワーク台座において、パネル展示を行った。

また、ハンセン病資料館学芸員によるオンライン講演会を東京動画にて、6 月 12 日から 12 月

26日まで配信した。

イ ヒューマンライツ・フェスタ東京 2025

ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発を図り、偏見や差別の解消に努めるため、令和7年11月15日（土曜日）新宿駅西口広場イベントコーナー、12月6日（土曜日）東京国際フォーラムで行われたヒューマンライツ・フェスタ東京 2025（主催：総務局人権部）においてパネル展示を行った。

ウ ハンセン病療養所入所者等に対する慰問

春季の慰問は、令和7年6月11日（水曜日）に多磨全生園を訪問して東京都出身者へ見舞金の支給及び郷土訪問事業の説明を行った。

秋季の慰問は、令和7年11月20日（木曜日）に多磨全生園を訪問して東京都出身者へ見舞品を支給した。

(5) 薬用植物園の行事

ア 薬草教室

都民を対象とした薬草に関する知識の普及・啓発活動の一環として、薬草についての専門家を招聘し、毎回テーマを変えながら講演を実施している。

	テ　　マ	開　　催　　日	参加者数	講　　師
第1回	尾瀬の自然を楽しむ	令和7年 4月17日（木）	91名	山田典一（みなかみガイド協会）
第2回	つらい痛みがなくなる漢方	令和7年 5月15日（木）	101名	新井信（東海大学医学部教授）
第3回	色の力で梅雨を乗り切る	令和7年 6月18日（水）	84名	田中光子（色彩心理カウンセラー）
第4回	未病に役立つ植物	令和7年 7月17日（木）	102名	杉本幸子（順天堂大学薬学部准教授）
第5回	東京の森を歩く その2	令和7年 9月18日（木）	84名	福嶋司（東京農工大学名誉教授）
第6回	渡良瀬遊水地植物散歩	令和7年10月17日（金）	73名	加藤裕一（日本植物友の会参与）
第7回	東洋医学における養生～名僧（沢庵、白隠）に学ぶ	令和7年11月19日（水）	106名	小林義典（北里大学薬学部教授）
第8回	春に向けて薬用植物を学ぶ	令和7年12月16日（火）	93名	三宅克典（東京薬科大学准教授）
合　　計			734名	

イ 薬草観察会

第1回薬草観察会（横沢入）	令和7年 4月 19日（土）	46名	薬草観察
---------------	----------------	-----	------

第2回薬草観察会 (皇居東御苑)	令和7年9月27日(土)	49名	薬草観察
---------------------	--------------	-----	------

ウ その他の普及啓発事業

平成19年度から啓発事業の一部を公益社団法人東京生薬協会に委託し、さらに平成22年度よりふれあいガーデン草屋舎が営業並びにイベントを開始している。

主催：公益社団法人東京生薬協会

イベント名	開催日	参加者数
ケシのパネル展	令和7年4月15日～5月15日	
ケシのミニ講座	令和7年5月5日、6日	153名
夏休み親子植物教室	令和7年7月26日	17名
薬草クイズラリー	令和7年8月24日	167名
木の実・草の実リース作り教室	令和7年12月11日	40名
健康講座	令和8年3月6日	57名
ボタニカルアート&東洋蘭展	令和8年3月13日～15日	
合 計		434名

主催：ふれあいガーデン草屋舎

イベント名	開催日	参加者数
春の植物に親しむ	令和7年4月26日	65名
草木染・カモミール	令和7年5月24日	29名
ハーブ講座食べられるハーブで作るリース	令和7年6月14日	23名
季節のお花をサッと束ねる	令和7年6月28日	19名
落語に見る食の風景 その9	令和7年10月18日	47名
ハーブ講座 レモンガラスで作るクラフト	令和7年10月25日	21名
多肉植物入門	令和7年11月8日	27名
野草散歩の春夏秋冬	令和7年11月15日	56名
アマゾン野草紀行	令和7年11月29日	69名
季節のアレンジ フレッシュなグリーンで作るクリスマスツリー	令和7年12月6日	23名
季節のアレンジ お正月に向けてしめ縄飾り	令和7年12月20日	35名
合 計		414名

薬用植物等の正しい知識や使い方に関する普及啓発イベント

(薬用植物等の正しい知識・使い方に関する普及啓発運動実行委員会、東京都の共催事業)

イベント名	参加者数	開催日
薬用植物・生薬・漢方に関する講座 第1回	86名	令和7年8月31日(日)
薬用植物・生薬・漢方に関する講座 第2回	84名	令和7年9月28日(日)
薬用植物・生薬・漢方に関する講座 第3回	63名	令和7年10月26日(日)
薬草収穫感謝の会	当日来園者 874名	令和7年11月1日(土)
講演会「日本文化から見る生薬としての笹」 講師 株式会社大和生命科学 代表取締役 大泉 高明	215名	令和7年11月1日(土)
薬用植物・生薬・漢方に関する講座 第4回	73名	令和7年11月30日(日)
薬用植物・生薬・漢方に関する講座 第5回	70名	令和7年12月21日(日)

3 広報

(1) 令和7年度発行物等一覧

件 名	発行年月日
東京都感染症週報	毎週（木曜日）
感染症発生動向調査事業報告書（年報）	令和7年7月
東京都微生物検査情報	毎月1回
東京都インフルエンザ情報（1号～26号）	令和7年9月～令和8年3月
東京都健康安全研究センター事業概要（令和7年版）	令和7年9月
東京都健康安全研究センター研究年報 第76号	令和7年3月
結核 2023	令和5年3月
東京都における結核の概況（令和3年）	令和5年2月
広報誌くらしの健康	四半期

(2) アーカイブセンター

健康危機管理を未然に防ぐためには、都民自身が健康安全に関する正しい知識を持ち、その知識に基づいた行動を行うことが重要である。

当センターがこれまで蓄積してきた研究結果やデータ等の健康危機管理情報を分野別に整理し、都民等がいつでも迅速かつ簡便に活用できるホームページ「アーカイブセンター」を平成25年4月から公開した。

また、平成24年6月23日の本館開設式にあわせて当センター内に「アーカイブ室」を設置し、パンフレットや書籍等の収集、保管を行っている。